

1. 福井空港ビル再整備構想について

令和5年3月に策定した「福井空港の将来像と今後の取組方針について」（以下、「将来像」）において位置づけられた「新空港ビルの構想（案）」を、有識者を変えた検討委員会を設置し、主に以下の観点から検討

防災拠点としての機能強化
を含めた福井空港の再整備観光やビジネスを中心とした
空港利活用の促進地域住民から
親しまれる空港

「福井空港の将来像と今後の取組方針」（R5.3月策定）

将来の空港の姿として、グライダーを含む小型機などによる現在の利用者と共存し、離着陸の時間調整などに柔軟に対応できるという特徴を活かし、以下のような空港を目指す

- 多様な形態の小型機による、観光やビジネスを中心としたスポット的な利用を促進し、長期的には、地元理解等を前提に、定期的な利用を目指す
 - 防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応できるよう機能強化を目指す
- 「将来像」では、令和5年度、6年度を「準備期」と位置付け、様々な取組みを実施

2. 福井空港の諸元

運用時間 : 午前9時から午後5時まで
滑走路 : 1,200m×30m
エプロン : 約8,600㎡、駐機スポット 11バース
空港ビル : S40年度竣工（築59年）、RC造2階建、延床面積1,587㎡



3. 福井空港が目指す姿

「将来像」の代表的な取組方針・「挑戦期」での取組み

防
災

【将来像】防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応した機能強化

- 令和5年度福井県総合防災訓練の実施（R5.10.7）
- 能登半島地震では救援・支援活動の拠点空港として全国から救援機受入
（延べ68回（北陸地方では防災・警察ヘリが最大14機、同時に活動）
病院食を珠洲市へ搬送、輪島市などから患者45人受入）
- 福井空港機能強化等タスクフォースにて、能登半島地震での対応も踏まえ、激甚化する災害への対応拠点としての機能強化策を検討
- 航空機関係のNPO法人主催による医薬品運搬訓練の実施（R6.11.16、17）



臨時医療施設を設置



被災地より患者受入れ



他県の県警ヘリを受入れ



医薬品運搬訓練の実施

観
光
・
ビ
ジ
ネ
ス

【将来像】小型ジェット機チャーターによる観光・ビジネス目的の利用増加

【将来像】民間事業者によるヘリ運航の、観光目的での新たな利用を提示

- 運行支援の拡充や営業の結果、令和6年度のプライベートジェット機等の利用は大幅増、チャーター便等の可能性も検討
- 令和5～6年度、「福井の空を語る会」において、市町と連携し、県内観光地付近に9か所の場外離着陸場を確保（R7.3県HP公開）
- ヘリを活用した外国人観光客や富裕層向けモニターツアー開催、運行支援の対象をヘリへ拡充→R5、R6 計14回の場外離着陸場利用

	R3	R4	R5	R6
来機回数 (補助あり)	7 (1)	4 (0)	7 (1)	18 (6)
うち ハイヤー横づけ	1	1	1	10



福井空港へのジェット機来港状況



エプロン内ハイヤー横づけ

見えてきた課題

能登半島地震対応などを通して課題が明確化

●ヘリ駐機スポット（エプロン）等の機能強化が必要

駐機スポット（エプロン）等への耐震対応や広さ不足、ヘリ用夜間照明未整備、給油施設容量不足、ヘリ・小型機駐機スポット混在

●DMAT医療活動スペースの確保等、空港ビルの機能強化が必要

現ビルのスペースでは自衛隊ヘリ（患者15人/回）による大量搬送患者にDMATが医療対応困難、DMAT資機材置き場も不足、災害対応参集者活動スペースも要確保

●プライベートジェット利便性の向上

駐機スポット（エプロン）の利便性向上、個別待合室確保によるプライベート向上、小型機格納庫の確保

●新たな取組みへの対応

チャーター機等にも対応できる乗降ロビー、空飛ぶクルマなど将来の次世代モビリティへの対応

●ヘリ観光活性化への対応

格納庫の確保による観光の可能性拡大、場外離着陸場の充実

目指す姿

（1）県民の安全・安心を守る防災の拠点空港

方針1 エプロンの耐震化等により、災害に強い福井空港を実現

- ・ 能登半島地震級の災害時にも確実に活動できるよう耐震化されたヘリ駐機スポットと給油施設を確保。緊急時ヘリの夜間着陸にも対応

方針2 大規模災害時における航空医療搬送や、災害対応参集者および物資の受入れに対応できる機能を強化

- ・ 航空搬送された患者への医療対応や、災害対応参集者の活動および空輸支援物資の中継・集約に必要な機能・スペースを確保

【ビル外での整備内容】

- ・ エプロン拡張、耐震化
- ・ ヘリ・小型機のスポットのエリア分け
- ・ 給油施設（燃料タンク）増設
※救援ヘリ3日分の燃料確保
- ・ ヘリ用夜間照明

【ビル内での整備内容】

- ・ 災害時の指揮調整所、個別指揮所、DMAT医療活動スペース等

（2）観光・ビジネス利用ニーズにきめ細かな対応ができる空港

方針1 プライベートジェット機による観光利用促進

- ・ エプロン内でのハイヤー横づけによる快適な乗り継ぎや、プライバシーが確保できる待合室の提供など、利用者の多様なニーズに対応

方針2 新たな取組みにもチャレンジできる施設整備

- ・ 地元理解を前提に、福井空港で離着陸可能な航空機のチャーターや、多数の小型機が集うイベント実施など、従来なかった利用にもチャレンジできる施設整備

方針3 空港および場外離着陸場をヘリ観光の活動拠点化

- ・ 観光ヘリの活動拠点として空港の機能強化、市町と連携しさらなる場外離着陸場を確保

【ビル外での整備内容】

- ・ エプロン拡張、エリア分け【再掲】
- ・ 給油施設（燃料タンク）増設【再掲】
- ・ 消防車の入替
- ・ ビジター機用格納庫確保

【ビル内での整備内容】

- ・ 待合室、乗降ロビー、保安検査スペース

地
域
等

【将来像】グライダーや小型機による継続的な利活用

【将来像】地域住民が空港に足を運ぶ機会の増加

- 民間団体による小型機パイロットライセンス取得訓練やグライダー飛行のメッカとして活発な利活用が継続
- スカifest（R5.9.30 2,000人来場）や小型機体験搭乗会（R5：117名、R6：118名）に加え、「ふくいこうこうであそぼう（R6年度 計5回）」を実施
- JAXAとの包括協定に基づき空港周辺小中学校計6校で航空教室を実施（R7.3）



グライダー訓練



免許取得訓練



エプロンでラジオ体操「ふくいこうこうであそぼう」



JAXAによる航空教室

●民間のグライダー活動、パイロット人材育成の取組みを継続・充実

駐機スポット（エプロン）の広さ不足等、講義室等学びを支える環境整備

●開かれた空港づくり、地域住民が空港に親しむ機会を充実

団体や地域住民の展示や活動スペース充実、体験搭乗等のイベントを継続・充実、各種団体や研究機関等との連携、地域に開かれた空港ビルのデザイン向上

（3）次世代を育み、地域住民に親しまれる空港

方針1 次世代航空人材育成への貢献

- ・ 福井空港で活動が盛んなグライダーや小型機のパイロットライセンス取得に取り組む団体が活動するスペースを確保し、福井に愛着を持つ航空人材育成に貢献

方針2 地域住民や子どもたちが先端技術や空港に親しむことができる場づくり

- ・ 空港近隣の研究機関等と連携し、宇宙・航空分野の技術開発に協力。空に関連した教室などをおとして地域住民や子どもたちが先端技術に触れる機会を充実
- ・ 地域住民や子どもたちが空港に親しむことができるイベントや体験搭乗を充実
- ・ 地域団体等の活動やイベントに使いやすく、地域住民が気軽に立ち寄りたくなる空間づくり

【ビル外での整備内容】

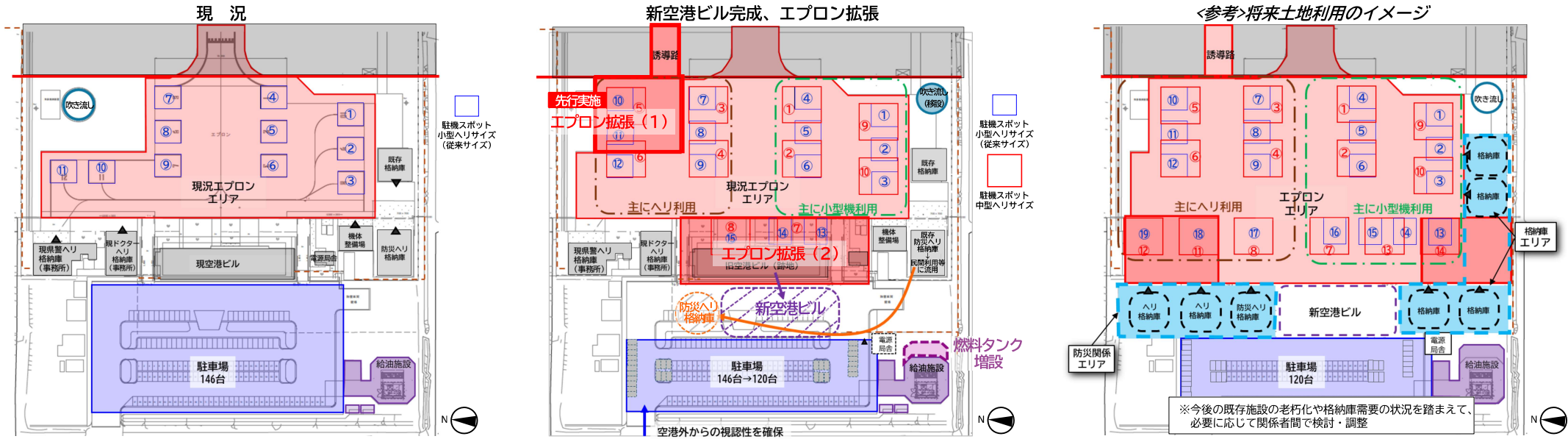
- ・ エプロン拡張、エリア分け【再掲】

【ビル内での整備内容】

- ・ 資格取得や空に関連した教室用の講義室
- ・ 体験搭乗協力団体等の活動スペース
- ・ 展示、地域活動スペース
- ・ 飛行機を見て楽しむことができる場所
- ・ 入りやすい空港ビルのデザイン

福井空港ビル再整備構想の概要

4. 敷地レイアウト



5. 新空港ビルに導入する機能

新空港ビル内には目指す姿を実現するため以下の機能を導入

- ① 防災の拠点機能(防災機能)
- ② 観光・ビジネス利用に対応できる機能(ターミナル機能)
- ③ 人材育成や地域住民の活動に利用できる機能(地域利用機能)
- ④ 空港の管理・運営機能(管理機能)
- ⑤ 空港運営を支える機能(関連業務機能)

充・追加 (目指す姿を実現する機能)

必要面積を確保

機能に応じた諸室の計画 (旧空港ビルと新空港ビル諸室の諸元比較)

室名等	現空港ビル		新空港ビル	
	面積	課題	規模・性能	整備方針
1F ロビー 【防災】DMATによる医療活動拠点スペース 【ターミナル】チャーター便等乗降ロビー・保安検査、待合 【地域利用】展示や地域活動等	245㎡	・要医療患者8人までDMATが医療対応可能 ・出入口が狭く、バリアフリーに非対応、患者搬送時に支障あり ・まとまった人数に対応できるスペースなし ・展示や地域活動等には手狭で暗い	充	・要医療患者15人程度、DMATが医療対応可能な面積、無柱空間 ・エプロン～駐車場までの患者搬送時のスムーズな動線確保（出入口の拡張、バリアフリー） ・可動間仕切り（乗降ロビーや保安検査等必要時に対応） ・多様な展示やイベント等に対応可の広々とした明るい空間
多目的スペース（共有会議室等） 【防災】災害時の指揮調整所、個別指揮所 【地域利用】資格取得用講義室、地域活動等	180㎡	・部屋の中央に柱があり、悪い使い勝手 ・災害時の個別指揮所等に対応不可	充	・ロビー近傍に無柱の、現状同程度の大会議室を確保、可動間仕切りの設置（臨機応変な利用） ・共有の小会議室等を追加
休憩室、待合室 【防災】災害時応援ヘリパイロット・隊員休憩室 【ターミナル】プライベートジェット利用者待合室、パイロット休憩室	7.5㎡	・2人程度の定員、冷暖房なし ・プライベートジェット利用者待合室には不適	充	・応援ヘリパイロットの休憩スペースを確保 ・プライベートジェットが確保された待合室確保（1Fエプロンから直接出入、ロビーを通らず外に出る動線確保）
DMAT用倉庫【防災】医療器具等資材倉庫	0㎡	・なし	追加	・必要な面積を確保
防災航空隊事務室【防災】事務所、宿直室等	120㎡	・応援航空隊受け入れの際の更衣室やトイレが不十分	充	・応援航空隊受け入れに対応できる更衣室やトイレの充（女性用含む）
展望デッキ【地域利用】展望、活動スペース	ベランダ利用	・狭く、視界も限定的（屋上は未開放）	充	・ベンチ、屋根等、居心地に配慮し屋上等に確保
管理事務室・消防 【管理】空港管理・運営事務室、消防棟	348㎡		必要面積	・実情に合わせて規模を整理
事業者貸部屋 【関連業務】給油、メンテナンス、ヘリ運航、小型機パイロット団体、研究等	205㎡		必要面積	・実情に合わせて規模を整理
その他共用部（トイレ、廊下、電気室、倉庫等）	481.5㎡		必要面積	

6. 今後のスケジュール

今後は、本構想をもとに、令和7年度から5年程度かけて、新空港ビルなどの基本設計、詳細設計により、規模の精査、事業費を検討したのち、新ビル建設などを行う。

また、エプロンの北東側のエプロン拡張（1）について、先行実施し、防災機能強化の早期発現を図る。

さらに将来にわたって空港を継続的に利活用していくために、地域の団体や事業者の方々と引き続き協働していく。

